

第 26 号
国立市北2-4-28
能 味 寿 哉 TEL.75-7110
印刷 (株)ぎょうせい

交友と信頼をもとに 更なる飛躍を

第二代会長に就任して

国立白門会会長 能味 寿哉



村田巨前会長が健康状態を憂慮されて、私に会長代行を命じられたのは、昨年一月の役員会の席だった。

そして五月末の定時総会で私が第二代会長に選任されるまでの半年間、前会長のご回復は捗々しくなかった。日頃お体具合について留意され、東京女子医大の榊原先生ほか高名な医師の診察を仰いでおられたことをよく知っている私は、今まで入院先にお見舞いに伺ってもお元氣そうな容姿言動に接して、いつも安堵

の思いを繰り返してきたことだったが、一昨年から昨年にかけてのお弱りようは、やはり大きな心配の的であった。私だけではない国立白門会の役員一同も、村田会長が作られた国立白門会という年来の強い思いから、この先どうなるのかと一抹の懸念を持っていたことは否めない。しかし村田会長は早くから決断され、後進に道をあけて下さった。一つは、ご本人が学員会国立支部長として十年の永きを勤めて今春の学員会総会で表彰を受けられることになつていただいたのも、勇退のご意志を固めさせたように拝察される。

昭和五十三年五月、国立白門会が三多摩支部の一分会と発足し、その四年後には支部昇格という歩みは、概して順風満帆な推移だったといえる。これ偏に村田前会長の強い母校愛と地域同窓に寄せる熱い情誼のもたらしたものと私は衷心尊敬申し上げている。

村田前会長のご功績は、国立白門会創立十周年記念誌「はばたき」に、当時の編集委員長だった福谷実副会長が「心を入れて執筆されている通りで誠に感慨にたえない。そしてその偉業の跡を受け継ぐ私は責任の重さをひしひしと感じている。「国立支部さんですか」と、色々な場合で必ず声をかけられ、ある種の羨望の眼を向けられることが少なくない。また「前支部長の村田さんはお元氣ですか」と尋ねられる。そうした折、私は村田前会長が導いて下さった着実な事業活動や本部協議員会などでの前向きな提言が本当に素晴らしいものであったと誇らしくなる。

私は幸いにして国立白門会創立の時から執行部の一員として参画してきた。その経験と幅広い交友に育まれた信頼をもとに、村田前会長とは一味違った運営を図っていかねばならないと考えている。

私を補佐してくれる荒木繁幸・山崎武・二宮魏・金子泰久の四副支部長、殊に中心的存在の堀田勲幹事長には、新

年度の活動で、小島泰義組織部長や新任の伊藤陽司広報部長・風間健事業部長・上田邦雄厚生部長の諸兄と一緒に大変なご面倒をおかけしている。高橋雅幸会計や穴戸勇之監査にも大事な財務をお願いしている。紅一点でいつも楽しいムードの平本聖子さんは、ご母堂を同伴されて初の一泊懇親旅行にも参加して下さった。地域協力型では、「第三回くにたちウオーキング」にも出場して全員が約11キロを完歩、笑顔いっぱいだった。昨秋の市民祭では新倉良平副幹事長が例年のように活躍してくれた。

これからも顧問・相談役の諸先生、多くの会員の皆さん方のご教示ご支援を頂いてヴィヴィッドな会を盛り上げていきたい。私の当面の企画は、平成五年が国立白門会創

立十五周年に当たることから、前回発行の「はばたき」の続編ともいふべきその後の五年間の活動状況を編集するのと併せ、「思い出のアルバム」を重点的にまとめたと思案している。実は福谷相談役には既に私の気持ちをお伝えし尽力を願うことになっていくが、多彩な輝きを放ったこの十五年間の諸行事を余すところなく掲載するのは至難としても、今のうちに出来るだけ収集整理しておく必要性はどなたにもご理解頂けよう。

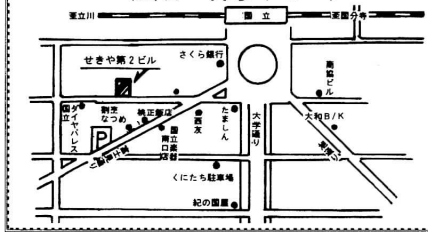
まだ腹案の段階であるが、記念すべき本年の大きな事業の一つになれば喜ばしい。おわりに臨んで、「文教都市・国立」にふさわしい済々たる調べ豊かな歩みを共に続けていこうではありませんか。

新年会のご案内

新年会を例年どおり行いますので、万障お繰り合わせのうえ、ご夫婦一緒に参加下さいますようご案内申し上げます。

記

日時 1月23日(土) 午後6時
場所 せきやホール
せきや第2ビル3階
会費 会員3,000円
配偶者2,000円
(当日ご持参下さい)



第一代会長に能味寿哉氏

第十五回定時総会開催

平成四年五月三十一日(日)、午後四時から、せきや第二ビル三階のせきやホールにおいて、第十五回定時総会と懇親会を開催した。

山崎武副会長の開会の言葉で始まり、校歌斉唱の後村田巨支部長の挨拶があった。村田氏は、十年間にわたって白門会会長の職にあり会員各位の協力に謝意を述べられた。また、このたび健康上の理由で、支部長・会長の職を辞して、新体制で支部の発展を図って頂きたいと結ばれた。



能味会長より村田名誉会長に感謝状を

堀田勲幹事長が、平成三年度事業活動報告を行い、高橋雅幸会計より会計報告、六戸勇之会計監査人の監査結果の

報告があり、満場一致で承認された。

続いて、堀田幹事長より、最新の会員名簿の調整等を含む平成四年度の事業計画・予算案の説明があり、承認可決された。

引き続き、村田支部長辞任による新支部長の選任の審議に入った。新支部長には、村田支部長の下で、一体となつて会の発展に尽力されてきた能味寿哉副支部長が満場一致で選ばれた。

能味新支部長は、就任にあたり、先ず村田前支部長の永年にわたる国立白門会の会員相互の親睦推進と母校の興隆にご尽力され、地域社会との交流・発展に多大な功績をされた実績に対し、深甚なる感謝のこぼを述べるとともに、村田路線を継承して、全力を傾注して更なる会の発展に取り組む決意を表明された。

また、能味新支部長より、村田氏の国立白門会の名誉会長職への推せん提案があり、満場一致で村田巨氏の就任を決定した。

能味氏の支部長昇格に伴い役員の一部変更が行われた。副支部長は、山崎武氏、荒木繁

章氏に加えて、新たに二宮巍氏と金子泰久氏を選任し、四名の体制となった。また事業部長は、風間健氏・厚生部長に上田邦雄氏・広報部長に伊藤陽司氏が選ばれ、それぞれ業務を引き継ぐことになった。

また、席上能味新会長の提案により、永年に亘り国立白門会の発展にご尽力された村田名誉会長に、会を代表して、能味会長より、感謝状と記念品を贈呈した。併せて、春の叙勲で勲五等瑞宝章受章の荣誉に浴した山崎武副支部長に、お祝いの記念品を贈呈した。

来賓として、市橋千鶴子顧問をはじめ、関八王子支部長、五十嵐立川支部長のご臨席を賜りお祝辞を頂いた。

総会は、上田新厚生部長の結びの挨拶でとどこおりなく終了した。

引き続き、五十嵐立川支部

長の乾杯のご発声により懇親会に移った。

平本聖子さんの名司会でスタートし、村田名誉会長の誕生と、能味新会長の就任祝いとあつて、盛り上がった。

前国立市長の谷清顧問の美声を口切りに、市橋先生の「鶴亀」、能味会長の詩吟と宴は、最高に盛り上がり、会員相互の懇親を深め、午後八時半、全員で肩を組んで「借別の歌」を合唱しお開きとなった。

最高に盛り上がり、会員相互の懇親を深め、午後八時半、全員で肩を組んで「借別の歌」を合唱しお開きとなった。

〈役員顔ぶれ〉

名誉会長 村田 巨
支部長 能味寿哉
副支部長 山崎 武、荒木繁
幸、一宮 巍、金子泰久

幹事長 堀田 勲
副幹事長 新倉良平、小林治
理事 伊藤陽司、玉利武
人、平本聖子

（広報部）
人、平本聖子

〈厚生部〉

上田邦雄、関喜一、青木 健

〈事業部〉

風間 健、皆川友彦、山口康雄

〈組織部〉

小島泰義、大串源太郎、川村俊介

〈相談役〉

福谷 実、丸本大、山村鶴音、井上正博、井上定男

会計 高橋雅幸
会計監査 六戸勇之



平成4年度 中央大学学員会 国立支部定時総会

中央大学学員会国立支部 会費納入のお願い

年会費は、白門会ニュースや名簿作成などの財源です。本年度分の会費未納の方は、郵便局備え付けの振込用紙に下記の通りご記入の上、お払い込み下さい。(年会費 3,000円)
口座番号 東京4-83303
加入者名 国立白門会
なお、備考欄に①連絡先電話番号②卒業年を必ずご記入下さい。

三遊亭竜楽師匠

真打昇進披露の記

能味寿哉

竜楽さんから、向島局の消印のついた立派な招待状を頂いたのは、十一月二日のことである。それこそ一世一代の晴れの行事が、新吉原の有名料亭松葉屋で営まれるとあつ

て、私の心は大きくはずんだ。そして、ご案内の十一月二十八日(土)が、子供のよう待ち遠しく覚えた。一度竜楽さんから、出席人数の関係で翌日でもいいかとの照会があったが、あいにく二十九日(日)は差し支えがあり、私の知る限りでは、堀田幹事長が日を変えて喜ばれたようだ。(注、二十九日は他に丸本大君と子息、菊池茂君出席)

さてその日、霧雨が柳並木を濡らす仲之町通りを歩いて松葉屋の切妻屋根をのせた門の前に私は立っていた。粋な玄關の受付には、若い嘶家二人が控えている。午後四時前に着いたのだが、既に先客二、三名が芳名録に記帳をしているところだった。招じられた舞台のある桝席は、朱塗り一色に艶っぽくほの暗い中にしずまっていた。私は棧敷の真ん中の最前列、いわばかぶりつきに席を取った。次第に混雑してくる招待客を、品のいい松葉屋の老女将がお世話していたが、その内私のカメラをみると、**「一枚記念にとつてあげましょうか」**と気軽に声をかけて下さった。

私も後から入場してきた国立白門会の青木健君や、続いて風間俊範君と一緒に平本聖子さん母娘、斎藤寛君と友人



初一席の竜楽師匠



真打昇進披露の口上を述べる円楽師匠



松葉屋の老女将



朱塗りの棧敷に国立白門会の面々

の女性方をとってあげたが、これは失敗した。開会の前には笑顔の小林治君と溝口敬人君のお二人も見えた。

定刻の四時半、華麗な舞台の前を、若い男女の新内流しが往来して冴えた爪弾きの音を場内にひびかせていく。幕があいて、富士松鶴千代が目出度い長唄を披露。そして真打昇進の口上の時刻がやってきた。小円楽が司会して兄弟子四人(その一人は、NHK朝の連ドラで力士の衣類を商う店主の楽太郎)が次々に、竜楽さんの資質と努力を称えて末長いごひいきを願う挨拶を多少面白おかしく述べる。

円楽師匠が、嘶家は人物描写・情景描写に技術の三点が大事だと言い、彼の企画力・実行力を併せ認めて「いつかは昇天するであろうと、竜楽と命名した」というが、「実は竜は竜でも、ガラバゴスのドラゴンになるかもしれない!」と満場を笑わせた。しかし師匠として厳しい中にも温もりのある口上が私の胸に快かった。竜楽さんは白面の童顔を上気させて只管頭を下げていた。そして三本締めで閉幕となった。

このあと記念寄席というのだろうか、円楽・竜楽両師匠の出演があり、吉原情緒を偲ばせて仲々の聞き物であった。皆さんお目当ての披露宴

は、二階大広間(百畳)で盛大に開かれ、司会の楽太郎に次いでドラマ出演(TBS・「紅い稲妻・人見絹枝」の左官屋さん)の竜楽さんの披露宴とあってマスコミのテレビやカメラも数多かつた。私たちの席はいつも話題提供の直木賞作家・志茂田景樹先生を囲み、丹波哲郎講演会の折に司会された秋岡このみさんや、八王子支部、竜楽さんの同期生の友人方と一緒に賑やかなものになった。乾杯の音頭をとられた元NHKの長嶋

武雄氏は童謡の研究者として知られた話術の専門家でもあり、竜楽さんとのかわりを印象深く述べて下さったし、来賓の深川無銘酒会々長で脚本家の真木柚子さんのお話もよかつた。志茂田先生もギャグの効いた祝辞を贈り、盛んな拍手を浴びられた。

その後の舞台では、浅草芸者の日本舞踊、ほう間玉助の名人芸、大神楽三人衆のだしものなどが続々と私たちの目を楽しませ、お祝いの気分を盛り上げてくれた。無銘酒会寄贈の全国各地から集めた名酒、例えば会津末広酒造の「剣」、宮城石巻の「日高見」、鳥根温泉津町の「開春流霞」といった珍しい地酒の数々に十分酔いは回った。私のカメラはますます怪しくなり、折角の若い向島芸者と国立白門会

三遊亭竜楽師匠プロフィール

竜楽師匠は、昭和57年法学部政治学科を卒業。心機一転落語家を目指した“異色”の學員。61年3月に三遊亭円楽門家に入門。平成元年二ツ目昇進。昨年10月めでたく真打に昇進。日刊スポーツ主催の「にっかん飛切落語会」のレギュラーで、平成3年度に同落語会の奨励賞努力賞を受賞、将来有望な落語家として注目されている。群馬県出身、国立白門会の準会員である。

の仲間たちのシャッターチャンスも残念ながらピンボケになっていた。

披露宴は140人の満員大盛況



聖子さんのお酌に志茂田先生もご満悦



新吉原松葉屋の趣ある門構え



第三回くにたちウォーキング 国立白門会は全員完歩

副支部長 金子 泰久

十月十日体育の日、秋晴れの好天に恵まれて、第三回くにたちウォーキング、国立市南部約十一軒を一巡する行事が催された。

谷保第三公園を午前九時スタートとなっていたものの、八時には、役員その他に、待ちきれぬ参加者が、三三五五集まって来た。国立白門会からも、能味会長の発案で、会長以下、堀田幹事長、山村、二宮、上田さん、それに風間健市議の方々が参加、ご夫人同伴の方もおいでになり、華麗さうを加えた白門会となった。

午前九時、開会と佐伯市長の挨拶の後、番号の若い順から公園を出発した。南武線の踏切、甲州街道を渡り、谷保天満宮へ。天満宮の境内で、長靴をはいて箒を持って拜殿を掃除をしていた欄宜の菊地茂さんとバツタリ逢い暫らく立断をしているうち、競技参加者が、二人越しに通り過ぎて行く。余り遅れることもなからず、天満宮の梅林を足速に抜け、舗装された農道へとコースをとる。一緒にスタートした能味会長らは、かなり先へ進まれたらしく既に視野にはなかった。この辺は、自動車通行も殆んどないの



復元された古民家 (旧柳沢邸)

で、小学生位の子供達は、グループで走り廻ったり、道草をしたりして、連れの親御さんに注意されている様子も微笑ましい光景であった。

およそ、五十分程で茶色いタイル壁面で五階建てのホリデイン東京国立にたどり着く。玄関の前には、ホテルの旗を中央に、日章旗と星条旗を左右に三本のポールが立ち私達を出迎えているようであった。ここは、休憩地点で、有志の方からのジュースなどが配られた。

小休止した後、中央高速道に沿って歩く。市立三中の周りに、国立、府中ICが、近いせいか、開発も進み、倉庫、配送センター、運送会社

の駐車場が点在している。高速道路と多摩川の間に、東京都多摩川流域下水道北多摩二号処理場が、デンと控え、その周りは、緑地化されて、人工的な公共物が自然の暖かさで共存している。

再び、高速道路のガードをくぐり、ヤクルト中央研究所へ向う。研究所の前には、国立市指定文化財の古民家が、

第3回ホームカミングデーに参加して

幹事長 堀田 勲

昨年三月復元されている。このあと、城山、南養寺、ママ下湧水を経て、出発地点の第三公園に約三時間の所要時間で、全員完歩。完歩証を受取り、会長差入れのビールで乾杯の後、帰途について。残念乍ら、紙面の都合で途中でまだしか書けなかったが、機会があったら、続きを述べたいと思います。

季節外れの超大型という台風28号が遙か小笠原の北に去り、十一月八日(日)は、秋晴れのよい天気になった。私は午前九時二十分、能味会長夫妻と豊田駅改札で待ち合わせ、親切に案内してくれる中大職員の手導で母校へ向かう路線バスに乗り込んだ。車内は多摩テックへ遊びに行く家族づれで混雑していた。わが国立支部から我々のほかに誰が出席するのかと、会長と話し合っている内に中大西門前に到着。そして9号館クレセントホールの受付で沢山の資料を頂く。私たちは広いホールのステージに向かって右側前方の席に腰をかけた。

当日の盛況については既に学員時報302号に詳述されている通りで割愛するが、何よりうれしかったのは、「親

演会を鑑賞し、初めての試みが立ち見も出るほどの人気ファイバーを喜び合ったが、午後の大懇親会では竜楽さんともお会いでき、握手も合つてご同慶の至りだった。竜楽さんは、近く真打昇進披露をされるという忙しい中で、大いにこれからのご健闘をお祈りして杯をあげたことである。



ホームカミングデーの懇親会場で竜楽さんと一緒に

お知らせ

誕生
六月十八日 新倉良平副幹事長に次男誕生。潤也君と命名されました。

結婚

国立市議会議員の青木健さんは、三田淑美さんと、五月十六日、立川グランドホテルにて、衆議院議員小澤潔先生ご夫妻のご媒酌により華燭の典を挙げられました。

新居は次のとおりです。

国立市谷保一四九五一
ベアガーデン三〇二号
TEL 〇四二五(七七)九五五七

上州路へのバスハイクに続き 箱根強羅に1泊旅行

広報部 平本聖子

平成四年度厚生部活動(部長上田邦雄)の第一弾は、昨年六月十三日(土)に行われたバスハイク。

二宮巍・新副支部長のきも入りによるマイクロボス利用の家族づれ一行十五名は、薄曇りの上州路を周遊。水沢観音から伊香保温泉・徳富蘆花記念館、はては「石段の湯」での入浴を試みるなど、途中「万葉亭」での昼食は、ご当地名物水沢うどんに舌鼓を打って満足したことがあった。

こえて七月十九日(日)、二十日(月)は堀田勲幹事長のお世話で箱根・強羅温泉にある会社の保養所を借らせてもらい、新支部長の能味寿哉夫妻はじめ山崎武副支部長夫妻ほか夫人同伴の会員も多

く、箱根登山鉄道のおじさいもまだ咲き誇っていて旅の楽しみは倍加、強羅の名湯にゆつくりつかった後は、管理人心尽しの料理の数々を賞味。中でも見事な船盛りが卓上をにぎわし、飲み物も大いにはかどった。

二次会は、広間でのカラオケ大会が夜遅くまで続き、山村鶴音相談役もマイクを握り、夫人方の日頃のノド自慢も披露されるなどして、初の1泊旅行は大成功であった。

親ぼく野外パーティーの開催

副支部長 山崎 武

平成四年十一月二十九日(日)は、夜来の雨と寒さを振り払い、春雨来を錯覚させる暖さであった。

国立市谷保の多摩川左岸は、かるかや、よし、あかぎ、よもぎなどが背丈ほどに



水沢観音近くの「万葉亭」で

伸びていた。その下手が石畳になつて、格好のパーティー場である。続く水辺のセセラギに、群れ遊ぶユリカモメや野鳥の声も聞こえてくる。

堀田幹事長夫妻等が、バーベキューの設営をしてくれた。鉄板、燃料、肉・魚・野菜など、準備万端整えて正午に点火すると、たちまち芳香が川原に広がり、食欲を誘う。これを賞味しながら、母校中央大学開催のホームカミングの話や、中央大学出身の落語家三遊亭竜楽の話、果ては、川が洪水になれば流れ来る燃料を拾い集めて、年間不自由なし、江戸時代からこうして燃料経済を図って来たなどと語る。

対岸を見れば日野市である。そこには名高い万願寺という寺があり、江戸時代から明治初期に至るまで、此処に



多摩川にて(堀田、二宮、山崎、風間の各氏)

「国立市民まつり」参加報告

11月1日(日)の国立市民まつりに例年どおり参加し、「なんでも相談室」と「バザー」を開催しました。

市民の皆さんとの楽しいふれあいに夢中になっているうちに会員の皆さんからご提供いただきました品物は瞬間に売り尽くしてしまいました。

今年は新たな試みとして大学本部より浜松広報部長をお迎えして「進学相談室」を開催しました。

このようにして「市民の皆さんとの交流を深める」、「我が母校の発展への寄与」という我が支部の参加目的は十分果たされたと自負しております。

バザーの売上金から、社会福祉協議会へ10,000円寄付、支部活動資金へ74,521円繰り入れました。

バザーへの出品にご協力いただきました会員の皆様、早朝からお手伝いいただきました会員の皆様、奥様に厚くお礼申し上げます。

(能味寿哉)

舟による渡し場があつて、寺院に参詣する者多く僧坊や、おいらんの居る黒屏の話も今に伝わるとか。

話はつきず腹は満腹、こうして三時間ほどの親ぼく会

は、楽しみと喜びに溢れ、国立白門会と中央大学の益々の発展を祈念し「万歳三唱」してお開きとなった。出席者山崎副会長、二宮副会長、堀田幹事長夫妻、風間健市議夫妻、上田厚生部長夫妻等であった。

◆新入会員紹介◆

浜 洋文氏

国分寺市日吉町一―五五―一六

〇四二五―九七―五五四―一

昭和四七年法学部卒

遠山 隆夫氏

国立市谷保六三二二

滝乃川学園内

〇四二五―七四―〇一六―一

昭和二三年理工学部卒